

学校法人國學院大學
國學院短期大学
機関別評価結果

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

國學院短期大学の概要

設置者	学校法人 國學院大學
理事長名	宇梶 輝良
学長名	蛭原 弘
A L O	平野 泰樹
開設年月日	昭和 5 7 年 4 月 1 日
所在地	北海道滝川市文京町 3 丁目 1 番 1 号

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
国文学科		115
コミュニケーション学科		70
幼児・児童教育学科		115
	合計	300

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	国文専攻	15
専攻科	英語専攻	15
専攻科	福祉専攻	30
	合計	60

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

國學院短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 10 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

國學院短期大学は、國學院大学開学以来の神道精神に立脚した道義の大学としての建学精神を一貫して堅持し、それを北海道に広めるために設立された。当該短期大学は、地方の小規模短期大学という厳しい経営環境にある中で、学長のリーダーシップのもと四年制大学への編入という手法により活力ある短期大学を目指している。

教育目的・教育目標も明確に示され、学生に十分に周知されている。建学の精神や教育理念が反映された「国学」、「教養総合」が教養教育科目の必修となっており、それに基づいて各学科の教育課程が構成されている。教育内容については、学生の多様なニーズに応えるように配慮されている。特に四年制大学への編入を目指す学生のため、編入後に単位認定ができる科目を増やすなど工夫がなされている。

教員組織、教育環境とも短期大学設置基準を充たし、教員もきめの細かい教育、学生指導に取り組んでいる。基礎学力不足の学生に対する対応や習熟度別クラスの設定など学生の状況に合わせた学習支援体制が組織的に確立している。

地域の短期大学として、開かれた短期大学を目指し、地域での公開講座・生涯学習講座や文化活動に積極的に参加している。特にアイヌ文化に対する研究・伝承は事業の中心として展開されている。國學院短期大学コミュニカレッジセンターが設立され、地域の生涯学習と地域文化の研究を主たる事業としている。平成 14 年から平成 19 年まで毎年、「アイヌの口承文芸」、「アイヌ語の文法」などを刊行し、当該短期大学の特色ある研究成果として蓄積されている。

社会的活動についても地域に密着した短期大学という全学的な認識により、地域社会の生涯学習および地域文化の研究・継承を極めて重要な使命と考え、社会的活動の中核的役割として位置づけている。それをさらに促進するために、コミュニカレッジセンターを創設した。

管理運営・財務管理についても適切に処理されている。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 進度別、習熟度別少人数クラスを設け、教育の効果に配慮している。
- アイヌ語やアイヌ文化を学ぶ授業を開設し、地域の伝統文化に根ざした独自の教育を行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館のアイヌ史、北方史などの蔵書が充実しており、それを地域に展示公開するなど積極的に地域の学術、文化活動に貢献している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 編入学へ積極的に取組み、編入学希望者に対する成果をあげている。
- 学生金庫制度（短期貸与制度）やワーキング・スカラーシップ制度（経済的困窮者援助制度）は、当該短期大学独自の特色ある取組みであり、学生の社会参加、就職への足がかりとなるだけでなく、経済的支援にも配慮したシステムを採用している。
- サマーフェスタを通して、地域密着型の短期大学として社会への貢献と、短期大学の広報活動を両立させている。学生の地域行事への積極的参画は、コミュニケーション能力の開発や幅広い人間形成に大いに役立てている。
- 学生の勉学や生活面も含めてカウンセリングマインドが大学全体に行きわたっており、面接による相談、研究室の開放など学生支援が行き届いている。

評価領域Ⅵ 研究

- 当該短期大学のコミュニティカレッジセンターの事業として地域文化の研究がある。アイヌ文化の研究・伝承としての研究成果を平成14年より毎年刊行している。地域特性をいかした研究業績をあげている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域に開かれた短期大学として、行政や各種団体などとの連携、交流に努め、サマーフェスタやオープンカレッジなどを通して、地域との共生や高大連携への努力がなされている。
- 地域文化の研究・継承としては、アイヌ文化事業の推進、地域振興への協力を行っている。特にアイヌ文化事業であるアイヌ文化の研究は、文部科学省の補助金を受けて8年間にわたりその成果を出版するものであり、全学科の正規科目である「アイヌ語」および「アイヌ伝承」の教育とも連動するものである。そのためにアイヌ研究の研究員を2名雇用し、オープンカレッジなどでの講師を担当している。アイヌ語研究の第一人者である金田一京助博士の記念文庫には貴重な記録や文献が所蔵されており、アイヌ語文化研究とその知的資産の社会への還元は、独自のものである。

評価領域Ⅷ 管理運営

- マスコミへの対応を密にし、積極的な広報活動を行っている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 少子化による入学者激減の時代に、大学・職員・行政・地域などと一体となって改革に取り組み、社会や時代のニーズを的確につかまえ、地域とともに成長しようとする姿勢がみられる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 短期大学全体としてファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動をより組織的に取り組み、スタッフ・ディベロップメント (SD) に対しても定期的、積極的に活動するなど、なお一層の努力が望まれる。
- 専任教員と兼任教員との意思疎通に関して、学科単位で、より組織的な体制化を図ることが望ましい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業評価アンケートの結果の扱いについて、教員や学生へフィードバックするなど、授業改善に役立てるために積極的な活用を検討されたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職支援への一層の取り組みが望まれる。就職試験対策(企業研究・適性検査・卒業生による説明会・模擬面接など)の実施により、就職率アップが期待できる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

國學院短期大学は、國學院大学開学以来の神道精神に立脚した道義の大学としての建学精神を一貫して堅持し、それを北海道に広めるために設立された。有栖川宮幟仁親王の告諭、芳賀矢一作詞の校歌は建学の精神・教育理念を示すものとして「入学案内」、「学生生活の手引き」に掲載され、入学式の理事長告示や学長式辞などで明確に示されている。また、全学必修科目である「国学」において神道精神を学ばせ、「教養総合」における校歌指導を通して、建学の精神の理解と帰属意識の涵養を図っている。日本固有のすぐれた文化、国民性を探究し、日本と世界の将来を担う有能な人材を育成するという教育目標が、各学科、専攻科の教育課程に具体化されている。建学の精神は学校法人國學院大學全体のものであるが、それに基づく教育目的・教育目標については、学科会議、教授会、学科長会議などの教学に関する討議の中で点検の努力が行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神や教育理念が反映された「国学」「教養総合」が教養教育科目の必修となっており、それに基づいて各学科の教育課程が構成されている。豊富な教養教育科目と、それぞれの学科で資格取得のために必要な専門科目を十分に配した教育課程は、学生の知的好奇心を啓発し、学生の多様なニーズに応えるものとなっている。

授業内容、教育方法および評価方法は『講義要項』によって学生に明示されており、履修指導の際に積極的に活用されている。各学科で、教学の効果を考えた教育課程の見直し・改善への取組みが意欲的に行われている。

授業評価アンケートを通して、授業内容・教育方法に対する改善も全学的に全科目にわたって行われており、今後はその集計結果を授業改善に役立てるための積極的か

つオープンな活用が期待される。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織、教育環境とも短期大学設置基準を充足しており、教員は各学科、専攻科の教育目的にふさわしい資格と資質を有している。各教員は教育活動、学生指導にも意欲的に取り組み、学長のリーダーシップの下、きめの細かい学生指導、教育に成果をあげている。教育環境に関しても、十分な広さと設備を有しており、安全への配慮もなされている。運動場、体育館および学生の休憩場所も十分な広さを有しており、教育環境の整備は充分である。図書館を中心とした学習環境も整備されており、参考図書を含めた蔵書数や座席数、司書およびサービス体制は充分である。蔵書のデータ化も進められ、インターネット上での検索を可能とし、学内外への情報提供に積極的に取り組んでいる。特にアイヌ史、北方史などの地域資料や国語・国文学関係の蔵書は充実しており、学生だけでなく広く地域に公開され、教育だけでなく地域の学術研究にも貢献している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

大学としての教育の効果は、教育目標の達成度と卒業後の評価の視点から常時改善を図り、社会に貢献する役割を持つ。その点、当該短期大学は、単位認定や成績評価などについて、授業満足度調査を実施するなど、客観的なデータに基づく適切な処理を行い、教員同士の改善に向けた真摯な努力もみられる。

また、学生の卒業後の生活に向けて事前指導、進路相談など、きめ細かに実施しており、それぞれが高い編入率や資格取得に結びついているものと考えられる。

しかし、短期大学の努力にも拘らず、退学率や就職率については課題もみられる。学生の生活や心理状況の把握、進路相談など一層の努力が必要と考える。

評価領域Ⅴ 学生支援

学生支援は全般的に充実している。大学案内、募集要項も分かりやすく、情報提供がされている。

入学前のオリエンテーション、入学時のオリエンテーションが適切に行われ、入学後の学生に対する学習の動機づけや学習支援の取り組みが組織的に実施されている。基礎学力不足の学生への補習指導や進度別クラス編成の実施は組織的に行われているが、優秀な学生への対応は、個々の教員が必要に応じて対処している。学生生活支援は学生支援委員会が統括して行っており、制度、施設は整備され継続的かつ積極的に対応しており、おおむね実績が上がっている。

進学希望者への支援は、積極的で國學院大学との連携もよく、実績があがっている。就職支援については、国文学科、コミュニケーション学科は、就職率アップが望まれる。留学生の受け入れは、モンゴル人文大学との協定に基づき定期的に受け入れてき

た実績がある。社会人奨学制度など、多様化する学生に対する支援体制も積極的である。

評価領域Ⅵ 研究

当該短期大学における研究日は週 2 日であり、短期大学としては恵まれた研究環境である。30 代の若手教員は意欲的に研究に取組み、研究、文芸、創作活動で成果をあげているが、一部消極的な教員もみられる。研究成果は「國學院短期大学紀要」や「滝川国文」（国文学科）に掲載され、紀要はインターネットで公開している。幼児・児童教育学科〈幼児保育コース〉では、全教員、全学生を会員とする幼児教育研究会を設け、学生の教育と教員の研究の性格を併有するものとして位置づけて講演会・研究会などを開催している。

また、平成 12 年に國學院短期大学コミュニティカレッジセンターが設立され、地域の生涯学習と地域文化の研究を主たる事業としている。後者の事業の中心となるのが、アイヌ文化の研究・伝承であり、平成 14 年から平成 19 年まで毎年、「アイヌの口承文芸」、「アイヌ語の文法」など、文部科学省による私立大学等経常補助金：私立大学教育研究高度化推進特別補助「教育・学習方法等改善支援経費」により刊行し、当該短期大学の特色ある研究成果として蓄積されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動については地域に密着した短期大学という全学的な認識により、地域社会の生涯学習および地域文化の研究・継承を極めて重要な使命と考え、社会的活動の中核的役割として位置づけている。それをさらに促進するために、コミュニティカレッジセンターを創設した。

國學院大学・國學院短期大学の学問的蓄積を広く道内に普及させ、知名度を高めるため、地元滝川市および札幌市内で、古典書籍の展示会や各種公開講座、公開セミナー、オープンカレッジなどを積極的に開催してきた。また社会人に入学金および授業料を免除する「社会人入学生奨学生」制度を設け、社会人の受け入れに対しても意欲的である。

学生の社会的活動も多岐にわたって活発に行われており、全学科の学生がボランティア活動に参加できる体制が整っている。中には授業科目と関連したボランティア活動もあり、こうした地域社会への貢献活動が、学生の成長や自信につながっている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学長のリーダーシップが遺憾なく発揮され、そのもとに適切かつ組織的に管理運営が行われている。その結果、赤字で推移していた消費収支が黒字に転換するという具体的な形で効果として現れている。法人と短期大学が離れているが、常務理事会などを活用し、その不足を補うよう努力を重ねている。

評価領域Ⅸ 財務

当該学校法人は、教育機関ごとの独立採算制を導入しているが、その運用は、法人の定める手順によって適正に処理されている。法人傘下の國學院大学の編入コースの設定などにより学生数の確保がなされ、平成 16 年度から平成 18 年度にかけては、消費収支ベースでは収入超過で推移している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

過去から現在まで自己点検・評価を継続実施し、時代や社会の激しい変化のなかで、建学時の崇高な精神を失うことなく、絶えず学生の未来を見据えて改善・改革を学長中心に短期大学が一体となって実践してきたことは高く評価できる。今後とも、目線を学生の未来に向け、魅力ある短期大学をめざして短期大学・地域などが一つになった改善を模索されたい。